

## 2023年度（2023年1月1日～2023年12月31日）事業報告書

特定非営利活動法人 アジア教育友好協会

2023年度はコロナ禍から脱し活動が動き出す中、各国それぞれの様々な変化を受けとめ、アジア教育友好協会（以下、AEFA）の創設の原点に常に立ち返り、共にアジアの地に生きる仲間として、現地の子どもの未来を切り拓くため、丁寧な対応を心掛け、活動に取り組んでまいりました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、AEFAによるアジアの現場への訪問を本格的に再開することができるようになりました。実際に現地に足を運ぶことで、学校までのアクセスや周辺の様子を体感し、学校では先生たち、子どもたち、地域の方々から直接話を聞いたり、話し合いを通して、現状を乗り越え、あるべき未来に向けて何をすべきか、共に考えられるよう、活動を戻してきました。地域・学校ならではの課題や特徴をふまえて各国パートナーNGOと候補校の確認や協議を行い、日本のご支援いただく皆様に具体的なご提案をお伝えするよう努めています。

また、コロナ禍の間に竣工した学校や図書館をご支援いただいた方々が訪問し、これまで写真や動画で見ていた建物を実際に見て、子どもたちと触れ合い、交流を重ねることもできました。今後も、AEFAならではの現場主義で、山岳少数民族の子どもたちが直面する課題を乗り越えるための学校プロジェクトを推進してまいります。

それぞれの地域の事情は異なりますが、現地のインフレの影響は深刻で、建設や運営コストは上昇しています。また、円安や為替の急激な変動もあり、全体として、ご支援いただく皆様にご負担いただく費用が大きくなってしまいう現状にありますが、為替のリスクを回避し、それぞれの費用の明細をお伝えして、プロジェクトをご支援いただく皆様、AEFAを支えていただく皆様に、これまで以上に納得感の高い支援がいただけるよう、丁寧な運営と事務を心掛けていきます。

また、引き続き、ベトナムにおける反腐敗運動の影響で、特に海外からの支援プロジェクトの許認可に時間がかかっています（現時点では申請から許認可を得るまで約9か月）。このため、ご支援いただく皆様にご内諾を頂いた学校2校・図書館2館は許認可待ちのため来年度に先送りとなり、結果的に2023年度の建設校（現地への送金ベース）は学校2校・図書館5館となりました。

2月23日に開催された定期社員総会およびその後の理事会において、これまで理事として長く活動を共にしてきた亀井善太郎が新理事長として選任されました。併せて、専務理事には事務局長の金子恵美が選任されました。創設者の谷川洋は、会長として今後も活動を続けます。あわせて、任期満了による監事の交代と新任理事2名が加わり、理事会メンバーが新しくなりました。力を合わせて活動に邁進してまいります。

## 1. 事業の概況および成果

### 〈建設事業(海外事業)〉

AEFAメンバーによる候補校への訪問が本格的に再開し(ラオス・スリランカ・ベトナム のべ8回)、現地  
のパートナーNGO、学校の先生たち、子どもたち、地域住民、行政の皆さんと顔を合わせ、現場において  
認識共有を行いながら事業を進めることができました。ポスト・コロナ、ロシア・ウクライナ戦争による世界  
的なインフレは、山岳少数民族地域のような経済力の低い地域にこそ、厳しい状況をもたらします。そ  
れぞれの地域の状況は以下のとおりですが、こうした激しい変化に常に寄り添い、こうした時期だからこ  
そ、丁寧に一つひとつのプロジェクトを進めていきたいと考えています。

また、現地では、ご支援いただいた方々が参加しての開校式および贈呈式を、コロナ禍の間に完成し  
た学校・図書館で行うことができました(ラオス2校・ベトナム4校および3館)。まだまだ現地を訪れることが  
できていないご支援いただいた方々もいらっしゃいますので、今後も現地と調整を重ねながら、継続して  
いきたいと思えます。

今年度の学校建設(建設中を含む、現地への送金ベース)の実績は、ベトナムにおける許認可が長期  
となっていることから、ベトナム(1校)・ラオス(1校) 合計2校(表1参照/2校とも建設中)となりました。

(表1)2023 年度建設校一覧

	国名	地域	学校名	支援者(敬称略)
1	ベトナム	イエンバイ省	チュクチョン分校 (Truc Tron)	匿名
2	ラオス	チャンパサック県	ファイルーシ幼稚園 (Houayleusy)	トレノケートホールディングス株式 会社

2022年度中に現地に送金した4校(スリランカ2校・ベトナム1校・ラオス1校)は、本年中に建設を進め  
ることができ、竣工に至ることができました。これにより、AEFAの事業開始以来19年間の学校建設の累  
計は335校(ベトナム184校、ラオス120校、タイ15校 スリランカ12校、中国2校、ネパール2校)となりまし  
た。

各地域における教育支援プロジェクトの概要は表2のとおりです。

図書館は、累計32館(ベトナム25館・ラオス7館)となりました。

(表2)2023年度教育支援プロジェクト一覧

	支援プロジェクト	支援者(敬称略)
ベトナム		
1	レインボーライブラリー (コンダ半寄宿小中校)	特定非営利活動法人 Shared Smile Japan
2	レインボーライブラリー (キムソンカシト小)	柏原東高等学校同窓会

3	Star Fish（子どもの心の健康を守る） （タイアン分校）	横浜幸銀信用組合
4	FASTER PLUS(バレーボール&スポーツコート) （モットドイ分校）	横浜幸銀信用組合
5	青葉奨学金	一般寄付
ラオス		
6	奨学金・先生基金	匿名、小牧修、田宮雅子、ソロプチミスト伊勢原、一般寄付
7	図書館2校（ノンケー中高校、ホーコンナイ中）	エルセラーン1%クラブ
8	図書館1校（ドンニャイ小中高校）	山田浩司
9	水(井戸・浄水器)プロジェクト（ナボーン中高校）	株式会社フォーサイト
10	水(井戸・浄水器)プロジェクト（ノンケー中高校）	ペンボン・サワディ
マレーシア		
11	CSO 運動会 交通費の一部支援	廣部武、服部駒子

各国の状況および取組みについては以下のとおりです。

## ベトナム

本年初頭には、ベトナム政府の反腐敗運動に伴う行政手続きの遅れは一時的なものと思込んでいましたが、ベトナムにおいてはその後も腐敗事件が続発しています。このため、外国からの資金とプロジェクトに対する確認は以前よりも厳しいものとなり、また、追加で資料提出を求められるなどもあり、これに伴い、許認可の遅れが発生しています。現在、申請から許認可の取得まで9か月程度かかっていますが、今後の円滑な手続きを実現するため、AEFAは、現地のパートナーNGOと共に、ベトナム政府のNGO統括機関を訪問しました。今後のプロジェクト許認可に必要な書類や情報について確認を行いました。政府全体で進む反腐敗運動が止まる見込みは立たず、むしろ、手続きはさらに厳格化していく可能性が高いと思われます。必要な事務手続きは増加していくものと思われませんが、今後も関係機関との情報共有や打合せを緊密に継続し、プロジェクト許認可の推進に努めてまいります。

また、こうした行政手続きの遅れは、ベトナム国内の物資の流通にも影響が出ているとされ、ポスト・コロナも相まって、各地でインフレが進み、学校建設やプロジェクト運営コストは上昇傾向にあります。

学校建設は、少数民族特有の言語の困難や経済的な貧困といった問題を抱える地域である東北部イエンバイ省におけるチュクチョン分校の教室増設、トゥエンクアン省とバクザン省のレインボーライブラリープロジェクトにより図書館建設と読書習慣啓もう活動を2館、新規に開始しました(累計25館)。

2022年度事業で建設を進めていた1校(クーヴァン分校)は、完成に至ることができました。この他、トゥエンクアン省とバクザン省における学校2校とレインボーライブラリープロジェクト2館はご支援いただいた

方々の内諾を頂き、建設許認可を取得中です(送金は来年となるので、2024年度事業となる予定)。学校集中化の動きが伝えられていましたが、現地を訪問してみれば、たしかに学校集中が進む地域が多いものの、過疎地域においては、子どもたちの通学や教員の確保などの実状に応じて、分校を積極的に維持する動きを現地にて確認することもできました。ベトナムの経済発展は著しいものがありますが、その一方で少数民族の子どもたちにはなかなか支援が行き届きません。AEFAの設立理念にかなうAEFAならではの草の根プロジェクトをこれからも推進していきたいと思います。また、バクザン省では、これまでのレインボーライブラリープロジェクトのよい評判を聞いた学校の先生たちから、ぜひ自分たちも参加したいとの強い希望があり、新たな地域で始まる動きも見えてきています。今後も、AEFAの設立の原点に常に立ち返りつつ、現在の現地の状況に適った意義ある支援を積極的に進めていきたいと考えています。

本年、レインボーライブラリーにおける読書習慣啓もう活動は12館において進められ、毎月の活動報告をご支援いただいた皆様に報告することができました。また、1年間の読書習慣啓もう活動の締めくくりとして、6館でクロージングセレモニーを開催しました。このうち、クアントゥルン校とトゥルントゥルック校のセレモニーにはご支援いただいた方々もオンラインで参加して、子どもたちへメッセージを送り、質問を投げかけ、これに子どもたちが応え、顔の見える温もりある交流を行うことができました。

コロナ禍をきっかけに2021年から継続してきた、子どもたちの心の健康を守り育てるStar Fishプロジェクトは、子どもたちの心の健康におよぼす影響を理解し、具体的な対応を学び、実践を重ねるプロジェクトです。自分自身の心に向き合い、今日の心の状態を日記につけていきます。また、そうした心の状態の変化を知り、その対処方法を学ぶことを通じて、自分自身で心の健康を守ることができるようになります。本年は、新たにタイアン分校で実施することができました。母語とは異なる国語を学ぶため、どうしても、体育の時間が割かれてしまう少数民族の子どもたちにとって、チームスポーツの経験は貴重です。運動を通して体力とチームワークを身につけるFASTER PLUSプロジェクト(バレーボールコート整備によるチームスポーツの推進)はモットドイ分校にて行いました。

このように、学校建設ばかりではなく、その後、子どもたちの学びをさらに深める教育支援プロジェクトに対して、現地からの要望が高まっています。子どもたちは、学校やレインボーライブラリー等で行われる、授業以外の多様な活動に参加することを通じて、学校をより楽しいと感じ、学校に毎日行きたいと思い、学校のお友達を通じて協調性を身に付けることができます。また、新たな体験を重ねることを通じて創造性を発揮し、自分自身の可能性に気付きます。言葉の問題を抱えるため、どうしても人前に出ず、コミュニケーションが苦手な子が多くなってしまうのが少数民族出身の子どもたちの特徴ですが、こうした多様な経験は、自分自身の将来を切り拓く積極性やリーダーシップを身につけることにもつながります。今後も、こうしたプロジェクトのさらなる充実に努めると共に、子どもたちの成長や直面する状況に応じて、現地のパートナーNGOと共に新たなプログラム開発にも取り組んでいきたいと考えています。

また、ドンズー日本語学校との連携で継続してきた南部チャビン省における青葉奨学金の給付については、4月にドンズー日本語学校のグエン・ドゥック・ホエ元校長先生らが現地を訪問しました。奨学生が一堂に会して、ホエ先生からの講話や励ましの言葉、また、日本の紹介も行い、奨学生たちの学びへのモチベ

ーションをさらに高めました。

## ラオス

学校建設は、2022年度事業で建設中の南部チャンパサック県ナンサイター小学校が完成しました。2024年春に支援者を迎えて贈呈式を実施する予定です。2021年度事業で東北部シエンクアン県における初のプロジェクト、モン族の子どもたちが学ぶラック28小学校では、ご支援いただいた方々をお迎えして2023年3月に開校式を行うことができました。また、コロナ禍の間に竣工した南部サラワン県の中学校と既存建設校をご支援いただいた方が久々の訪問を実現し、現地の皆さんと再会し旧交を温める機会を得ることもできました。

今年度はチャンパサック県ファイルン幼稚園の改築に取り組んでいます。ファイルンでは、これまでにAEFAプロジェクトで小学校を2棟建設しており、学習環境が大幅に改善してきたところです。同校の熱意ある先生たちの指導もあり、学業でもスポーツでも優秀な成績を修め、郡のモデル校となっています。特に少数民族の子どもたちにとって重要な就学前教育への理解も深まり、小学校の敷地内にある幼稚園の環境改善と、より多くの幼児が通えるようにしたいという強い希望が寄せられました。この背景には、ラオス南部において、同国の通貨安・猛烈なインフレによる経済的困難から、働き手として保護者が出稼ぎに行き、村には祖父母と子どもたちしか残っていないため、幼稚園が必要という状況もあります。また、中学校以上では、これまで学校整備を進めることができ、これにより、就学者が増加するという好循環にありましたが、猛烈なインフレで生活苦に陥り、中学生・高校生の多くが学校に通わず、出稼ぎや農作業に出るといった働きに出ざるをえない状況にもなっており、就学前からの教育のさらなる充実が長い目で見て必要です。先生たちも、農業や副業をしなければ生活が苦しく、教師を辞めてしまう人も増えています。

猛烈なインフレに伴って、建設コストやプログラム運営費用の大幅な上昇といった影響も出ていますが、こうした状況にあるからこそ、学校に来ている児童や生徒たちの学びをさらに充実するための教育支援プロジェクト、先生たちのモチベーションに直結する教員寮の改善支援等、現地のニーズに沿ったきめ細やかなAEFAならではのプロジェクトを今後も継続していきます。

図書館建設と読書習慣啓もう活動(キャンドルライツライブラリー)は、引き続き南部サラワン県の中高校3校で新規に着手することができました。2022年度事業の3館は竣工し、2023年新年度9月より順次開館しています。生徒たちが読書を楽しみ本に親しむほか「音読コンテスト」の活動も始まっています。図書館第1校目である南部サラワン県クアセット小中校では、引き続き多くの児童生徒が本を読むために集い、子どもたちの居場所となっています。

また、サラワン県内の地域の基幹校で生徒数も多い2つの中高校における水の環境を改善するために、井戸と浄水器の支援にも着手しています。

先生基金・奨学金は、本年は7名が教員養成校や職業訓練校を卒業、5名の学び(サラワン県教員養成短大・ベトナム クアンチ省医療大学カレッジ等)を支援しています。2023年新年度から、奨学金第2期生の

モム君が故郷の小学校の校長先生となりました。今後も、モム君のように未来を自身の手で切り拓いていく若者を増やしていくためにも奨学金を継続・充実してまいります。

## スリランカ

現在も、国としては経済危機にあり、工事の着手を見送っていた2022年度事業の学校建設(2校)と修復(1校)は、今年度に入ったタイミングで着工し、順調に工事は進捗して、竣工に至ることができました。2023年9月、AEFAが現地を訪問し、3校とも竣工を確認しています。いずれの学校においても先生たち、児童生徒、地域のみなさんとの交流会が開催されました。特に、カワティサプラ・マハー小中校では、地域の人々が伝統的な祭祀を行い、新しい学校の完成を祝いました。

スリランカにおいてもインフレが続き厳しい生活が続いていますが、教育を通して国をよくしていきたい、そのための学校環境整備を行いたいという要望が現地から届いています。今後も、児童や生徒の学びのモチベーションを高める学校建設プロジェクトを進めてまいります。

## その他

マレーシアでは、引き続きセランゴール州にあるミャンマー出身チン族難民の学校であるCSOプチョン校(Chin Student Organization Puchong)の運営と、年に一度の行事である運動会(SportsDay)の交通費一部支援を行いました。

### <交流事業>

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いて、4年ぶりとなる「第14回AEFAフォーラム」を7月16日に対面で開催しました。参加者の皆さんが「少数民族の子どもたちと同じ立場に立つ」体験プログラムを実施し、参加された皆様からは、現地で取り組む教育支援プログラムの意義をより深く理解することができたといった声をいただくことができました。

また、対面での出前授業(長野市大岡小、文京区第一中学校)、地区道德公開講座(八王子市小宮小)を再開しました。

オンラインでも出前授業(さいたま市植水小)を実施し、日本で学ぶベトナムからの留学生が参加して日本語で直接子どもたちと対話し、質問にお答えするなど、相互理解を深めることが出来ました。

日本の学校で実施してきた「出前授業」は累計763回となりました。

### <広報活動>

ホームページの更新・ソーシャルメディア(FacebookおよびInstagram)による発信、会報35号と36号を発行しました。

### <資金調達>

AEFAとして初めての取り組みとなる「マンスリーサポーター」の募集を開始しました。他のNPOやNGOも参

加する寄付プラットフォームであるSyncableを活用したものです。クレジットカードで毎月引き落としいただくことで継続したご支援をお預かりすることができます。AEFAにとっては初めての取組みでもあり、パンフレットも作成し、AEFAスタッフがお会いする方々に手渡し始めたところです。会報36号にも同封し、会員・ご支援いただく皆様に発送したほか、賛同くださる企業や団体、店頭などにおいても配布をお願いしています。マンスリーサポーターによる継続的な支援によって、AEFAらしい、山岳少数民族の子どもたちの教育の「質」をさらに高め、変化の激しい現地のニーズに対応するための教育支援プログラム(奨学金、子どものリーダーシップ育成プログラム、栄養改善プログラムなど)を行うことが出来ますし、新しいプログラム開発の資金としても活用していきたいと考えています。

今後も、マンスリーサポーターの輪を広げ、子どもたちに寄り添うAEFAならではのプログラムを継続してまいります。

## 2. 収支および資産、会員の概況

<収支および資産の概況(単位:千円) 千円未満切捨>

当期収入額	63,063	=	一般寄付 61,857	+ 会員会費 1,205	
当期支出額	43,309	=	建設事業費 34,175	+ 交流事業費 2,751	+ 管理費 6,383
当期事業収支	19,753				
期末正味資産	60,370				

当期収入額には、来期以降の事業として現地に送金する予定の15,112千円(学校建設3校及び建設積立金)を含みます。

<会員の概況>

会員数:個人会員 131名(うち正会員45名)、法人会員10社(うち正会員3社)

会費収入は昨年比260千円減の1,205千円。

### 3. 事業支出内訳

事業支出の内訳は以下のとおりです。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位:千円)
建設事業	① <学校建設> 学校および図書館建設(読書習慣啓もう活動を含む)  ② <教育支援プロジェクト> ベトナム StarFish FASTER PLUS  マレーシア難民学校 運営支援  ③ 児童生徒奨学金及び 教師育成事業	2023.1.1 ~ 12.31	① ベトナム 1校 2館 ラオス 3館  ② ベトナム マレーシア  ③ ベトナム ラオス	4名	①地域の住民及び児童生徒: 1校平均150名程度 合計約1050名  ② 児童計200名及び地域住民 マレーシア (チン族児童) 約150名  ③ベトナム 児童生徒計 66名 ラオス教員養成短 大生、職業訓練校 他10名	34,175
交流事業	① 日本国内出前授業: 計4回(累計763回)	2023.1.1 ~ 12.31	① 日本 4校	2名	①各回: 約35名 ~300名 合計:約500名	2,751